

4) 野生生物生息域管理コンポーネント 坪内 俊憲 氏

目的 対象地域において野生生物生息域管理の総合的手法を確立すること。

基本戦略

- ・地域の人々が地域の環境、自然を保全するための最適な守護者である。
- ・人々はその便益を理解したとき、始めてその資源を保全する。
- ・監視活動（モニタリング）は人々の日々の活動を組み入れる必要がある。
- ・保全のために関係者を統合化する。→旅行業者、プランテーション業者、研究者など、サバの自然に興味を持っている人はすべて関係者とする。

主な活動

- ・委員会主導で、エコツーリズムを実施し、経済的利益がもたらされた。
- ・村落の保全委員会を設置し、サバの名誉野生生物官制度で、名誉レンジャー試験に合格した住民は、3年間の任期で活動する。これらの住民には、逮捕権、現行犯の物品の押収権を与えており、取り締まりができるようになっているため、市民参加の野生生物管理が可能になっている。
- ・自然林を保護区として設置し、ゾウの移動ルート、テングザルの生息域を確保することができた。（サバ野生生物保全区）
- ・保護区と保護区の間にある重要な生態系を保全するために、“ボルネオ保全トラスト”を立ち上げた。

結論

- ・明確な便益を提示することで、村落住民の保全に対する意識は否定から、肯定的に変化した。
- ・(1) 生態と社会を評価、(2) 適切な便益の同定、(3) 保護区を設置し、管理計画を策定、(4) エコツアー及び持続可能な利用を試験し、明確な便益を例示、(5) 関係者と一体となった管理、(6) 民間企業に計画段階からの参画、(7) 保護区外の野生生物生息域管理のために関係者を統合するプラットフォームの提供、このアプローチはセガマ河下流域で効果があり、目的を達成できた。
- ・保護区内外における野生生物生息域管理の持続発展性はすべての関係者、特に民間組織を統合していくことで高めることができた。
- ・すべての関係者が一緒に行動できるプラットフォーム（パートナーシップメカニズム）は野生生物生息域の連続性と健全性の確保を促進し、生物多様性保全に不可欠である。

BBECプログラム 野生生物生息域管理 コンポーネント 活動報告

坪内俊憲

前BBEC-HMC長期専門家
星槎大学共生科学部助教授

野生生物生息域管理コンポーネント

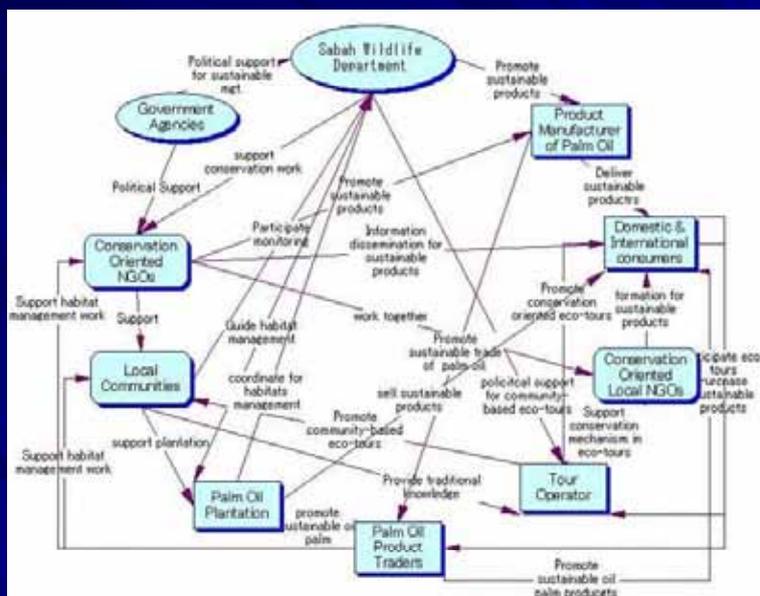
- **目的:** 対象地域において野生生物生息域管理の総合的手法を確立すること。
- **対象地域:** タビン、クランバ野生生物保護区とその周辺地域
- **主務機関:** サバ野生生物局
- **実施機関:** 森林局、土地管理局、キナバタンガン郡庁、その他。

生息域管理基本戦略

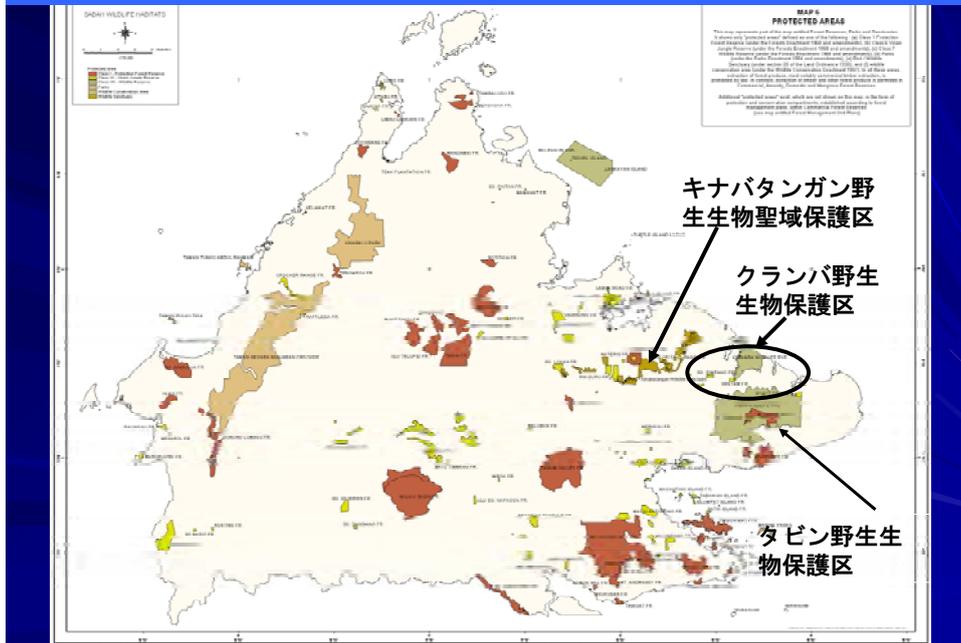
- 地域の人々が地域の環境、自然を保全するための最適な守護者である。
- 人々はその便益を理解したとき始めてその資源を保全する。
- 監視活動(モニタリング)は人々の日々の活動を組み入れる必要がある。
- 保全のために関係者を統合化する。

関係者統合化マップ

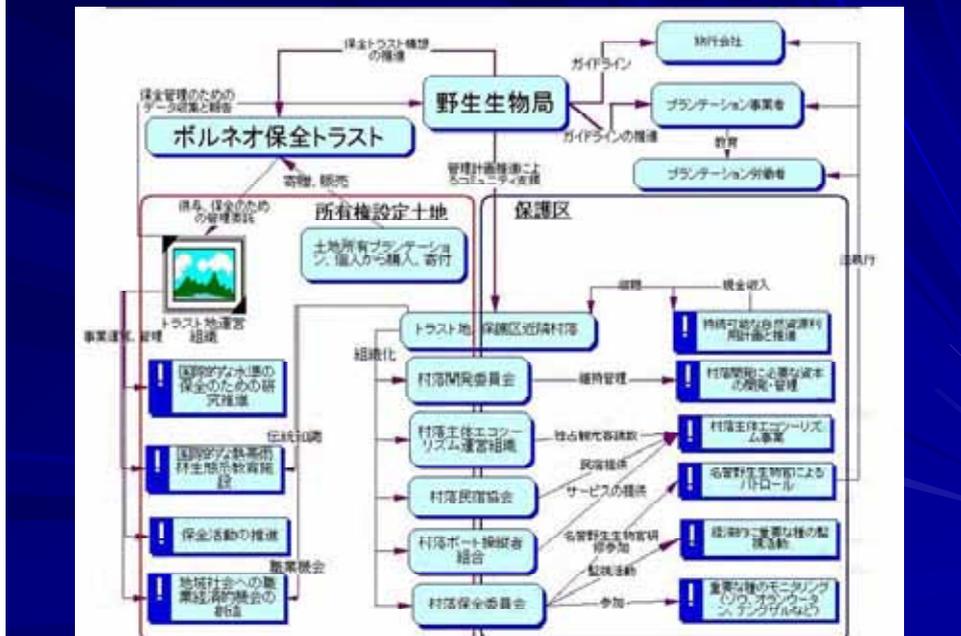
互いに依存する不可欠なパートナーとして



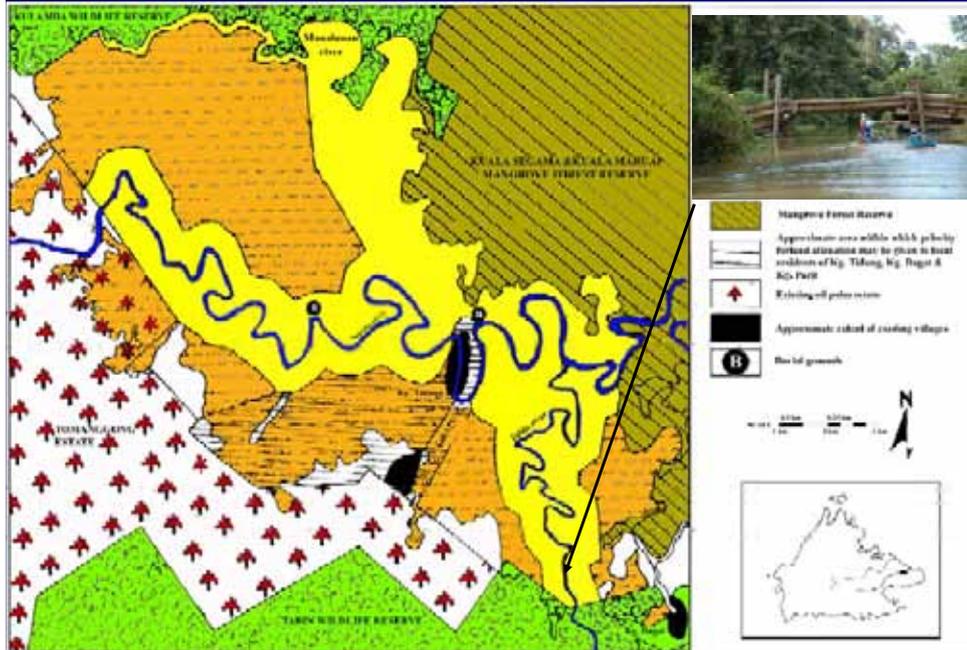
HMCの対象地域



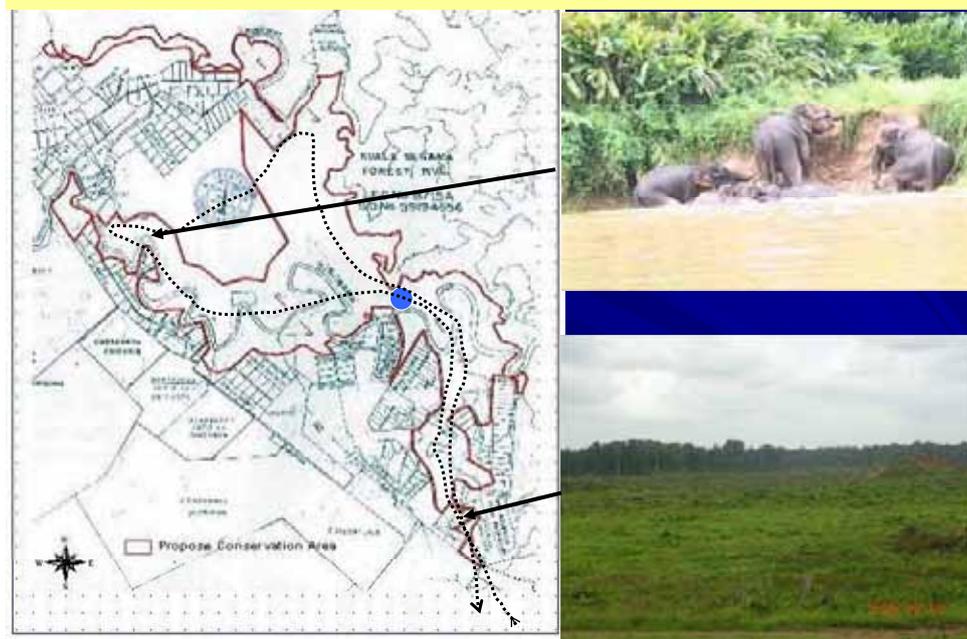
生息域管理戦略図



提案セガマ河下流域野生生物保全区



最終セガマ河保全区とボルネオゾウ移動ルート



結論

- 村落住民の保全に対する意識は否定から、肯定的に変化した。
- (1)生態と社会を評価、(2)適切な便益の同定、(3)保護区を設置し、管理計画を策定する、(4)エコツアー及び持続可能な利用を試験し、明確な便益を例示する、(5)関係者と一緒に管理する、(6)民間企業に計画段階から参画してもらう、(7)保護区外の野生生物生息域管理のために関係者を統合するプラットフォームを提供する、このアプローチはセガマ河下流域で効果があり、目的を達成できた。
- 保護区内外における野生生物生息域管理の持続発展性はすべての関係者、特に民間組織を統合していくことで高めることができた。
- すべての関係者が一緒に行動できるプラットフォーム(パートナーシップメカニズム)は野生生物生息域の連続性と健全性の確保を促進し、生物多様性保全に不可欠である。